

第 号	平成 **年 1月 1日								
商号	調 査 報 告 書 サ ン プ ル				代表者	A 田 B 夫			
営 業 施 設	本 社	東京都中央区銀座** - ** - **			電 話	03 -**** -****			
	支 社	大阪			営 業 品 目 比 率	保温、保冷工事			
	営 業 所	名古屋、福岡							
	出 張 所	なし							
工 場	なし								
資 本 金	発行可能 株式総数	1,000,000 株			信 用 要 素	基本点	増減点	評価点	
	払 込 金	金	1 億円	200,000 株					
創 業	昭和 25 年 4 月				経 営 者 信 用	6	0	6	
設 立	昭和 25 年 4 月 20 日				経 営 体 制	6	0	6	
決 算 期	年 1 回 (3 月)				販 売 状 況	6	-2	4	
23/3 期 決 算	売上高	9,876,500 千円			仕 入 状 況	6	0	6	
	利益金	234,500 千円	配当	0%	財 務 構 成	6	-1	5	
	前期平均月商	800,000 千円			資 金 操 作	6	-1	5	
最近平均月商	(ヶ月平均) 823,000 千円			銀 行 信 用	6	-1	5		
従 業 員	職員 180 名(内女) 工員 名(内女)			既 往 業 績	6	-2	4		
主 要 仕 入 先	サンプル冷機販売 サンプル工業			採 算 性	6	-2	4		
	Sample Japan			当 面 の 見 通	6	0	6		
主 要 販 売 先	サンプル冷蔵 サンプル倉庫			増 減 点 事 項	0	0	0		
	Sample建機販売			総 合 評 点	60	-9	51		
主要取引銀行	サンプル銀行(銀座)			(所見要約)					
借 入 残 高	25億5,000万円			サンプルセメントの関連会社であり、信用背景は厚い。 直近2期は原価高によるコストの逆ザヤで業績は低迷。					
所 見	多 少 注 意 (51 点)								
備 考	・債権及び動産譲渡登記なし ・別途社債2億円。								

所 見 の 根 拠

昭和25年4月の創業時から保温保冷工事の施工に携わり、昭和28年1月より建築設備に加えダクト工事にも進出、一方ではALC工事、アスベスト処理工事、クリーンルームパーティション工事をも手掛けている。近時は建材販売にも積極的であり、年商10億円規模で推移している。過去の最高年商はバブル崩壊後の平成5年3月期の約230億円であるが、以降は建設不況下、受注が抑制される経済環境の悪化に伴い、業界間の受注競争は熾烈を極め、受注単価が低下する中、直近年商は998億円にまで減少する厳しい状況に置かれている。只、当社の強みは、昭和45年10月にサンプルセメント(株)との業務提携後、同社から30.0%の出資を受け、同社の関連会社になったことである。

1. 平成20年秋口に発生したリーマンショックと国内のデフレ不況が尾を引き、受注単価の引き下げに抗しきれず、平成22年3月期以降2期連続で売上高は100億円割れとなり、収益面は経費を吸収しきれず営業利益段階の逆ザヤに陥り、最終利益は2期連続欠損を計上するに至った。今期は、A田氏に代表が交代、逆ザヤを排除する選別受注に徹する一方、東日本大震災の復旧特需の受注に注力、売上高100億円、経常利益2億5,000万円の黒字回復を目指している。
1. 資金面は、過去に大口不良債権発生に見舞われ、収益性を損なう一因にもなっていたが、売掛債権の迅速な回収に努めた結果、平成23年3月期には回収決済が先行する資金繰りに変化したことはプラス要因である。2期連続欠損に陥ったが、近時は借入金を削減し利払いを圧縮することで収益性を高める経営方針に取り組みだしている。対外信用は厚く、資金調達力に揺るぎのないことはプラス要因である。

財務比率及び収益率分析

(単位：千円)

比率別	算式	平成22年 3月期		平成23年 3月期	
		算出基礎	比率	算出基礎	比率
静態比率	自己資本比率	自己資本 総資本 1			%
	流動比率	流動資産 2			%
		流動負債 3			%
	当座比率	当座資産 4			%
		流動負債 3			%
固定比率	固定資産 自己資本			%	
固定長期適合率	固定資産 自己資本 + 固定負債			%	
動態比率	受取債権回転率	年売上高 受取債権 5			1
	棚卸資産回転率	年売上高			1
		棚卸資産			1
	固定資産回転率	年売上高			1
		固定資産			1
	総資本回転率	年売上高 総資本 1			1
支払債務回転率	年間仕入高 支払債務 6			1	
収益率	総利益率	総利益 売上高			%
	営業利益率	営業利益			%
		売上高			%
純利益率	純利益 売上高			%	
説明	<p>2期連続で営業利益段階で赤字となり、多額な欠損を計上。 自己資本比率も*割台から*割台に転落(平成22年3月期**.*%、平成23年3月期**.*%)。 平成23年3月期には、在庫を**億****万円(月商の*月分)圧縮したが、未だ対月商比*.*ヶ月の在庫を抱え込んでおり、当座比率の低下共々、気懸りな要因である。 平成23年3月期は貸倒引当金の設定なし。</p>				

<正式な算式>

- 1 総資本+割引手形+裏書手形 2(流動資産+割引手形+裏書手形) ÷ 貸倒引当金 3流動負債+割引手形+裏書手形
- 4 (当座資産+割引手形+裏書手形) ÷ 貸倒引当金 5受取債権+割引手形+裏書手形 6支払債務+裏書手形

(秘) この報告書は絶対秘密を厳守して下さい。 弊社はこの調査について損害賠償の責を負いません。